

認証評価制度に係るヒアリング

国立高等専門学校機構

独立行政法人国立高等専門学校機構
本部事務局 学務総括参事
小林 幸人

効果、改善事例等

- **各学校の内部質保証体制の構築、強化**
 - 教育活動に関する点検、改善に向けた計画的、組織的体制整備が進められている。
⇒3巡目の認証評価が終わり、各学校の内部質保証体制の強化が進んでいる。
- **3ポリシーに基づく教育活動の継続的な点検、改善**
 - DP、CP、APについて、より分かりやすい設定が進められている（社会への説明の強化）。
 - 3ポリシーに基づく教育課程の編成、成果の検証が進められている（教育課程の体系化）。

課題等

- **対応に係る負荷、評価疲れ**
 - 機関別認証評価、JABEE、KIS（後述）等、異なる複数の評価に対応する必要があり、担当教職員の業務負担が大きい。
 - 教育、学生指導・支援業務の多様化、増大に伴い、内部質保証（点検、改善）業務の相対的負荷が増大している。
- **法令上の適格性を中心とした評価**
 - 点検項目、及び指摘事項が細かく煩雑であり、対応の負荷が大きく、また、その効果についても疑問が残る。
 - 適格性を中心とした評価に偏っており、各学校の特色ある教育の伸長・深化を促す仕組みとしては十分機能していない。



「知の総和」 答申 内部質保証

現在の内部質保証システムの充実を図りつつ、新たな第三者評価への連動・活用を通じて内部質保証制度の更なる実質化を図る



- 「知の総和」 答申に示されるように、「評価のための評価」から脱却し、質確保と負担軽減のバランスを踏まえた制度の抜本的見直しが期待される。
- 各学校の主体的・自律的な内部質保証体制の構築、運用は、これまでの機関別認証評価で示された考え方を踏襲した上で、詳細な法令等の適格性の評価ではなく、各学校の特長を伸長・深化させる評価制度の設計と運用が望まれる。
- 次頁に示すように、他の第三者評価との関係を整理した上で、より効率的な評価方法の設計と運用が望まれる。



「知の総和」 答申 第三者評価

機関評価から学部・学科等を対象とした評価（プログラム評価）への移行

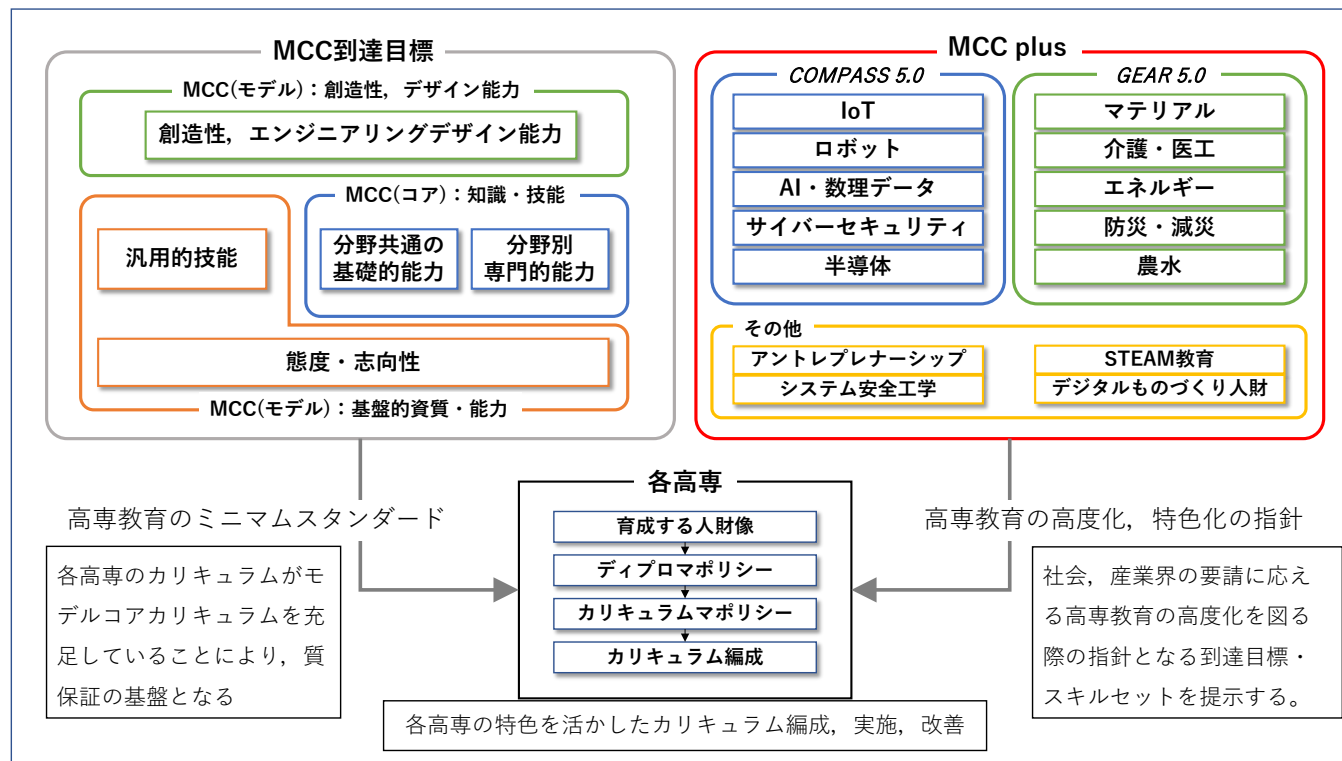
- ・教育の質を数段階で示す。
- ・教育情報データベースを活用した定量的評価

【期待される点】

- ・教育成果の実質的な評価へと変更することにより、各学校の教育の特長や強みを明確にすることができる。

【留意点・懸念点】

- ・「教育の質の段階的評価」でどのような指標を用いるのか（「各大学間の比較可能」と関連し、「知識」等の限定的な指標を用いた優劣を示すものとならないよう配慮が必要）。
- ・「学部・研究科等」を対象とした評価（プログラム評価）となる場合、高専の規模等への配慮が望まれる。
- ・高等専門学校が実施している第三者評価（JABEE、KIS、STCW条約に基づく資質基準制度（商船学科）、専攻科特例認定等）との関係を整理した上で、学修者本位の質保証の実質化に向けた検討が望まれる。



モデル・コア・カリキュラム（MCC）

全ての高専の学生が卒業までに修得すべき到達目標として定めたもの

各高専のカリキュラム編成

MCCを包含し、それぞれの学校の特長、特色を活かして編成される。

※**MCC plus**：高専教育の高度化・特色化を推進するための参照指針

MCC到達目標

MCC（コア）：一般科目や専門科目などの各分野との関連性が強い到達目標

ブルーム・タキソノミーにおける認知的領域の学習目標を参考に到達水準を設定

MCC（モデル）：基盤的資質・能力（ジェネリックスキル等）、創造性・デザイン能力などさまざまな学習活動を通して育成を図る到達目標として設定



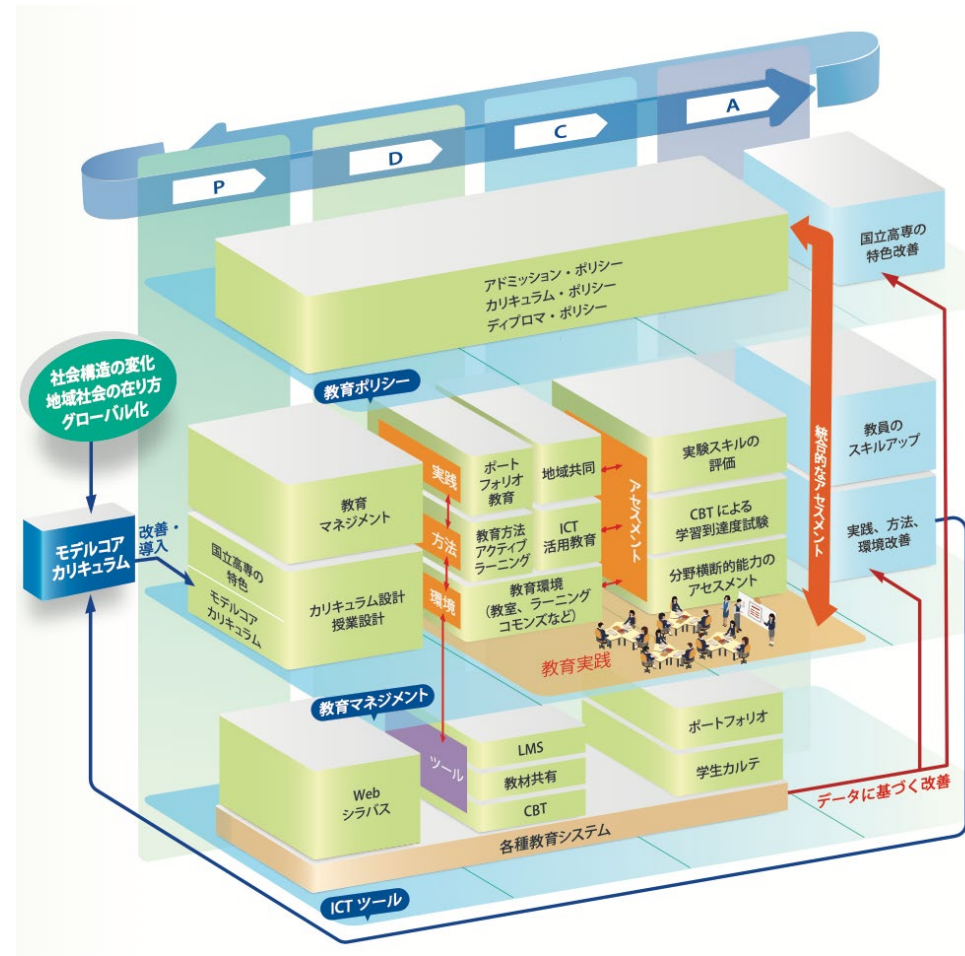
MCCを基盤とした質保証のためのPDCAサイクル

• Plan

- 教育マネジメント
- カリキュラム設計
 - MCC
 - 高専の特色

• Do

- 教育方法
 - 教育設備
 - AL
 - ポートフォリオ
 - ICT



• Check

- 学生の達成度評価
 - DPの達成度評価
 - 知識の到達度評価
 - 実験スキルの評価
 - MCC(モデル)のアセスメント

• Action

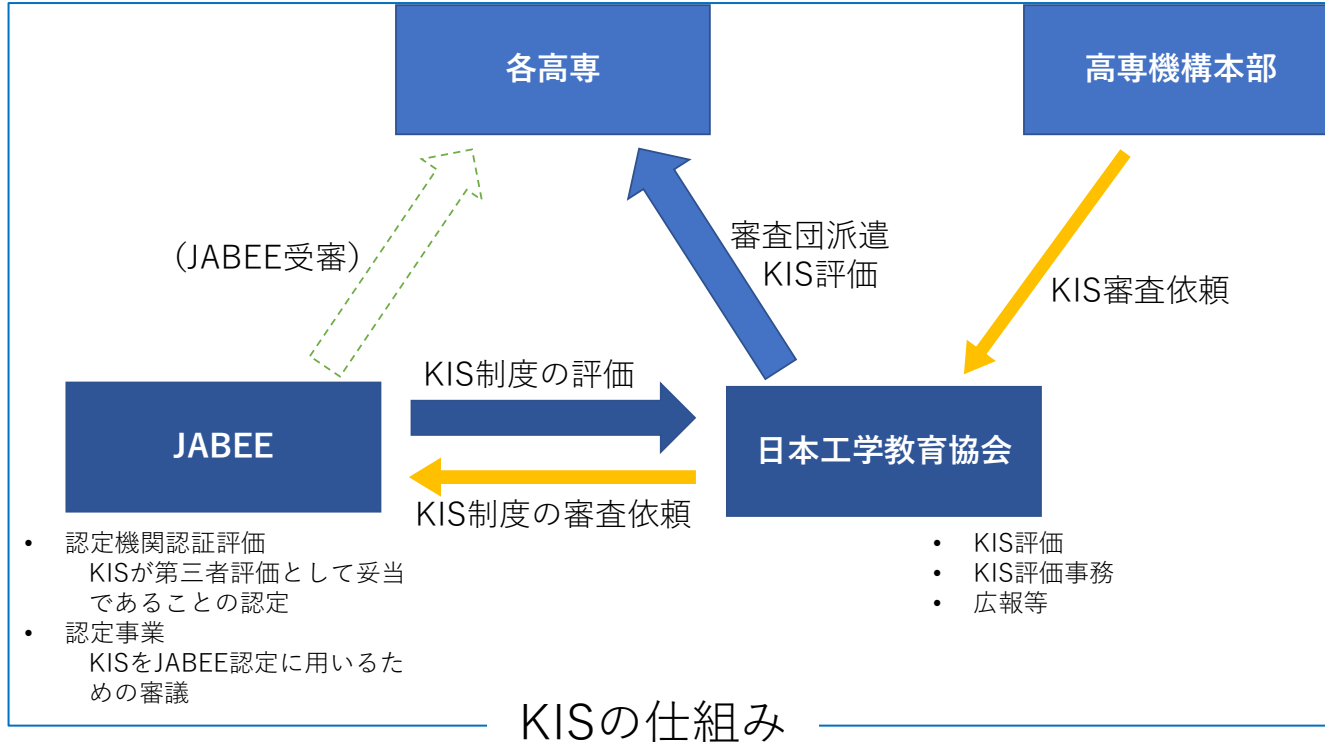
- 教育方法の改善
- 教育環境の改善



KIS（KOSEN International Standard：国立高専教育国際標準認定制度）

5年間一貫の本科教育に関する国際的な教育の質保証を行うための認定制度

- ・ MCCを基盤とした各学校の教育の質保証体制、運用状況、教育の成果等の自己点検に基づく第三者評価
- ・ 公益社団法人日本工学教育協会が評価を行う第三者評価
- ・ JABEEの支援を受け、JABEE認定審査への接続を想定した国際的な教育の質保証の仕組みを検討



KIS実績及び予定

令和4年度：3校（試行）受審・認定

令和5年度：4校受審・認定

令和6年度：7校受審・認定

タイ高専（KOSEN-KMITL）受審・認定

令和7年度：9校受審予定

令和8年度：10校受審予定

令和9年度：11校受審予定

令和10年度：10校受審予定

（うち3校は令和4年度受審校の2回目）



「知の総和」 答申 社会へのアカウンタビリティ

- ・ 大学自らの情報公表の充実
- ・ 国民がわかりやすい評価結果の公表
- ・ 新たなデータプラットフォームの構築⇒各大学間の比較可能

【期待される点】

- ・ 各学校の特色や強みを明確にすることが可能となる。

【留意点・懸念点】

- ・ 「各大学間の比較可能」が、特定の観点からの優劣を示すものとなることのないように、学修者本位の考え方に立ち、「出口における質」「学修成果」について慎重に検討することが望まれる。
⇒各教育機関に求められる役割、ニーズ等を踏まえた上で、成果を点検、評価する仕組みが望まれる。